



【調査 A】看護学教育における臨地実習に関するアンケート調査

調査A回答者：各看護系大学代表者（=社員）様 1名

◆回答期限：2023年3月3日（金）まで延長いたしました

大学教員の皆様におかれましては日々、効果的な教育方法の研鑽に尽力されていることと存じます。昨今の、病院入院日数短縮化による医療密度の増加、医療安全体制の規制強化、患者の権利意識の向上といった背景から、徐々に学生が臨地で参加型実習ができにくくなっているように思われます。そこに新型コロナウイルス感染症のパンデミックが加わり、実習を中止せざるを得ない状況ともなりました。しかし、同時に学内での実習補完方法の開発も進みました。看護学教育質向上委員会（以下、委員会）では貴重な実習機会を効果的なものとするために、学内での実習補完教育も活用した臨地参加型実習を推進する必要があると考えています。

そこで、臨地実習についての現状と大学教員皆様のご意見をお聞きする下記アンケートを作成しました。委員会では、このアンケート結果を基に、看護学教育の質向上のために必要な支援体制（CBT・OSCEなど）の提言や教材開発（DXなど）の示唆を得たいと考えております。アンケートは、まず属性をお尋ねし、「Ⅰ. 臨地実習の実態に関する質問」、「Ⅱ. 臨地参加型実習を行う場合の準備体制に関する質問」で構成されます。時期的にお忙しいことと承知しておりますが、重要な内容でありますので、何卒アンケートにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本アンケートは文部科学省高等教育局医学教育課の協力を得て実施しております。調査結果は3月25日（土）開催の報告会にて会員校の皆様にご報告させていただくとともに、文部科学省高等教育局医学教育課にも提供いたします。

★印が必須回答になります。

★問1 会員コード： _____ 会員校名： _____

★問2 貴学の設置主体についてご回答ください。

1. 国立・省庁大学校 2. 公立 3. 私立

★問3 貴学の看護系学部・学科の設置年数についてご回答ください。

_____年目

★問4 貴学の看護系学部・学科の1学年の学生定員数についてご回答ください。

_____名

★問5 貴学は看護系学部・学科以外に以下の医療系学部・学科を有していますか。（複数回答可）

1. 医学部 2. 歯学部 3. 薬学部 4. リハビリテーション系学部・学科
5. 臨床検査技師育成学部・学科 6. 放射線技師育成学部・学科
7. 看護系学部・学科以外の医療系学部・学科は有していない 8. その他（ _____ ）

I. 臨地実習の実態に関する質問（コロナ禍以前の領域別臨地実習の状況）

ここでは、臨地参加型実習を「看護学生が医療チームの一員として、臨地実習指導者の指導の下、一定の役割と責任を担いながら看護師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを目的とする。単なる知識・技能の習得や看護実践の経験に留まらず、実際の患者を相手にした業務を通じて、医療現場に立った時に必要とされる思考・対応力をも養う。」と定義します。

この定義のうち、「医療チームの一員となっているか」、「看護技術の経験の度合い」について、コロナ禍以前の領域別臨地実習の状況をお尋ねします。

★問6 看護系大学生の卒業時到達度達成のために、臨地参加型実習は必要だと思いますか。

1. 必要だと思う 2. 必要と思わない 3. どちらともいえない

問7 問6の回答を選択した理由をお聞かせください。

★問8 貴学で行われている領域別臨地実習では、臨地参加型実習ができていますか。

1. 全体的にできている 2. 一部できている 3. 全くできていない 4. その他（ ）

問9 問8で「1. 全体的にできている、または2. 一部できている」とご回答の場合、そのために工夫されていること、先進的な取組（例 実習指導体制、安全管理体制、独自のガイドライン作成 等）があればお教えください。

問10 問8で「2. 一部できている、または3. 全くできていない」とご回答の場合、できていない理由を選択してください。（複数回答可）

1. 実習施設が、医療安全の面からリスクを減らすために実施を制限している
2. 臨地実習指導者の関わりが不十分であり実施できない
3. 実習前の学生の技術レベルが低く実施できない
4. 大学の実習担当教員の技術・指導力不足で、実施ができない
5. その他（ ）

問11 以下の内容は、領域別臨地実習で学生が医療チームの一員として参加できているのかを尋ねた質問です。どのくらい実施できているかについて、領域ごとに回答の選択肢から選んでご回答ください。

回答の選択肢

1. 実習場の全部署でできている 2. 実習場の全ての部署ではないが概ねできている
3. 実習場の半数以下の部署ではあるが、できている 4. 全くできていない
5. 完成年度に達していないため該当しない

	成人	老年	母性	小児	精神	在宅
1 学生がカルテや看護記録の閲覧権限を有している。						
2 学生が測定したバイタルサインは正式な記録として採用されている。						
3 学生が実施した看護を実際の看護記録に記載することが認められている（看護師確認後の記録や看護師との名前併記での記録を含む）。						
4 学生が立案した看護計画が実際の看護計画に採用されている。						
5 看護スタッフのカンファレンスで学生の意見を求められる。						

問 12 領域別臨地実習で以下の看護技術をどのくらい経験しているかについて、領域ごとに回答の選択肢から選んでご回答ください。

*看護技術は「看護師等養成所の運営に関するガイドラインの看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」を参照

回答の選択肢：	
1. 75%以上の学生が経験している	2. 50%以上～75%未満の学生が経験している
3. 25%以上～50%未満の学生が経験している	4. 25%未満の学生が経験している
5. 経験の機会がない	6. 完成年度に達していないため該当しない

	成人	老年	母性	小児	精神	在宅
1 臥床患者のリネン交換を指導の下で実施している。						
2 食事指導を指導の下で実施している。						
3 経管栄養法による流動食の注入を指導の下で実施している。						
4 排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)を指導の下で実施している。						
5 移乗介助を指導の下で実施している。						
6 自動・他動運動の援助を指導の下で実施している。						
7 ストレッチャー移送を指導の下で実施している。						
8 入浴・シャワー浴の介助を指導の下で実施している。						
9 陰部の保清を指導の下で実施している。						
10 清拭を指導の下で実施している。						
11 洗髪を指導の下で実施している。						
12 口腔ケアを指導の下で実施している。						
13 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換を指導の下で実施している。						
14 酸素吸入療法の実施を指導の下で実施している。						
15 ネブライザーを用いた気道内加湿を指導の下で実施している。						
16 褥瘡予防ケアを指導の下で実施している。						

17 創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)を指導の下で実施している。						
18 経口薬(バツカル錠、内服薬、舌下錠)の投与を指導の下で実施している。						
19 経皮・外用薬の投与を指導の下で実施している。						
20 坐薬の投与を指導の下で実施している。						
21 点滴静脈内注射の管理を指導の下で実施している。						
22 フィジカルアセスメントを指導の下で実施している。						
23 検体(尿、血液等)の取扱いを指導の下で実施している。						
24 簡易血糖測定を指導の下で実施している。						
25 検査の介助を指導の下で実施している。						
26 使用した器具の感染防止の取扱いを指導の下で実施している。						
27 感染性廃棄物の取扱いを指導の下で実施している。						
28 無菌操作を指導の下で実施している。						
29 針刺し事故の防止・事故後の対応を指導の下で実施している。						
30 安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)を指導の下で実施している。						
31 安楽な体位の調整を指導の下で実施している。						
32 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケアを指導の下で実施している。						
33 精神的安寧を保つためのケアを指導の下で実施している。						
34-1 経鼻胃チューブの挿入を指導の下で実施している。						
34-2 経鼻胃チューブの挿入を見学している。						
35-1 膀胱留置カテーテルの管理を指導の下で実施している。						
35-2 膀胱留置カテーテルの管理を見学している。						
36-1 導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を指導の下で実施している。						
36-2 導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を見学している。						
37-1 浣腸を指導の下で実施している。						
37-2 浣腸を見学している。						
38-1 排便を指導の下で実施している。						
38-2 排便を見学している。						
39-1 ストーマ管理を指導の下で実施している。						
39-2 ストーマ管理を見学している。						
40-1 新生児の沐浴・清拭を指導の下で実施している。						
40-2 新生児の沐浴・清拭を見学している。						
41-1 口腔内・鼻腔内吸引を指導の下で実施している。						
41-2 口腔内・鼻腔内吸引を見学している。						
42-1 気管内吸引を指導の下で実施している。						
42-2 気管内吸引を見学している。						
43-1 体位ドレナージを指導の下で実施している。						
43-2 体位ドレナージを見学している。						

44-1 ドレーン類の挿入部の処置を指導の下で実施している。						
44-2 ドレーン類の挿入部の処置を見学している。						
45-1 皮下注射を指導の下で実施している。						
45-2 皮下注射を見学している。						
46-1 筋肉内注射を指導の下で実施している。						
46-2 筋肉内注射を見学している。						
47-1 静脈路確保・点滴静脈内注射を指導の下で実施している。						
47-2 静脈路確保・点滴静脈内注射を見学している。						
48-1 薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を指導の下で実施している。						
48-2 薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を見学している。						
49-1 輸血の管理を指導の下で実施している。						
49-2 輸血の管理を見学している。						
50-1 止血法の実施を指導の下で実施している。						
50-2 止血法の実施を見学している。						
51-1 静脈血採血を指導の下で実施している。						
51-2 静脈血採血を見学している。						
52-1 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を指導の下で実施している。						
52-2 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を見学している。						
53-1 医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等)の操作・管理を指導の下で実施している。						
53-2 医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等)の操作・管理を見学している。						

問 13 上記以外で経験している技術項目があればお書きください。

II. 臨地参加型実習を行う場合の準備体制に関する質問

臨地参加型実習を行うために欧米では、各看護系大学が学生の実践能力保証のための各種試験を行う傾向にあります。日本でも医学や歯学教育では全国共通の共用試験として実習前に必要な知識を確認・保証する試験（Computer Based Testing : CBT）と実習前の必要な態度、技能を確認・保証する客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination : OSCE）が実施されています。さらに、医師法改正（2023年4月1日施行）によって、CBTとOSCEを合格した医学生は指導医の下、医行為を行うことができることとなります。

このような背景の下、JANPUでは、実証事業として日本看護系大学協議会版CBT（JANPU-CBT）の試行を実施中です。臨地参加型実習を行う場合の準備体制についてお尋ねします。

問 21 問 20 で「1. 実習場で指導にあたる人の配置」を選択した方にお聞きします。どのような実習場で、どのような人材が、どの程度足りないか、可能な範囲でお答えください。

問 22 問 20 で「4. 臨地参加型実習において看護学生が行う基本的な看護技術の水準の改訂」を選択した方にお聞きします。実習ガイドラインについて、さらに充実させてほしい事項があればお書きください。

問 23 問 20 で「5. 法律や制度の改正」を選択した方にお聞きします。具体的な意見があればお書きください。

問 24 貴学において実習前の学生の知識、態度や技能の質保証のために行っているものを選択してください。(複数回答可)

1. 実習前の知識確認のための教科目を超えた試験 (CBT または Paper Based Testing : PBT)
2. 実習前の態度・技能確認のための教科目を超えた客観的臨床能力試験 (OSCE)
3. 教科目ごとの実習前の態度・技能確認のための実技試験
4. その他 ()

問 25 問 24 で「2. 実習前の態度・技能確認のための教科目を超えた客観的臨床能力試験 (OSCE)」を選択した方にお聞きします。カリキュラムに位置付けていますか。

1. はい
2. いいえ

問 26 問 25 で、「1. はい」と回答した方にお聞きします。科目名をお教えてください。

()

問 27 問 24 で、「2. 実習前の態度・技能確認のための教科目を超えた客観的臨床能力試験 (OSCE)」を選択した方にお聞きします。実施にあたって用いているものがあれば選択してください。(複数回答可)

1. 教職員による模擬患者
2. 学生による模擬患者
3. 患者団体等の模擬患者
4. シミュレーター
5. その他 ()

問 28 実習前の知識確認のための教科目を超えた試験について課題があればお書きください。

問 29 実習前の態度・技能確認のための教科目を超えた客観的臨床能力試験（OSCE）について課題があればお書きください。

問 30 そのほか、ご意見があればご自由にお聞かせください。

問 31 臨地参加型実習実施にあたって、先駆的取り組みや工夫等、学校様に詳細にお尋ねすることについて、対応可能である場合は、以下に連絡先をお書きください。

学校名：

お名前：

役職：

電話番号：

メールアドレス：